

長岡地区納税貯蓄組合連合会 会長賞 佳作

税金の使い道

長岡市立堤岡中学校

三年 高橋 志歩

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、新潟県村上市や近隣の県でこれまでに経験したことのないような記録的大雨が降り続いて深刻な状況になっているとニュースで流れていた。日本は災害が多く、その度にすぐに自衛隊が派遣され、その後の復興が進められている。自衛隊の方はがれきの撤去や救助などを行い、災害に見舞われた住民の方にとっては力強く寄り添ってくれるありがたい存在だ。テレビを通じて見る被災地は自分には現実の出来事のように実感できないが、確実に私達が納めている税金が誰かの助けになっている。自衛隊の派遣やまちの復興のために使われるお金は税金が使われている。また、日常でも道路や橋など私達の生活に欠かすことのできないインフラや上下水道など色々な事に税金が使われている。

その他にも、有事だからこそ税金で救われた命がたくさんある。災害だけでなく、新型コロナウイルスへの対応だけでもワクチン接種や企業への休業補償金など様々な有事の場面では税金が担う役割が大きくなる。税金だからこそ新型コロナウイルスワクチンも誰もが等しく接種する機会が持てた。

だからこそ本当に必要な人に、必要な支援をきちんと届けなければならぬ。

ればならない。特にコロナ禍では、弱い立場の人を守るための役割を税金が果たしてきた。だからこそ正しい使い道で本当に困っている人に届けなければならぬ。出来ることならば税金を払いたくはないと思う人も多い。しかし、自分の為だけを考えるのではなく困っている誰かの為に使われている税金の必要性をみんながきちんと理解すればお互いさまの優しい社会になると思う。

日本では、当たり前のように水道の蛇口をひねるとおいしい飲料水が出てくる。海外では水道水を直接飲める国は珍しいと聞いたことがある。アフリカなどの発展途上国ではいまでも汚い雨水を生活用水として使用して多くの人の命が危険にさらされている。コロナ禍が過ぎ、日常が取り戻せたら今度は税金を世界の恵まれない弱者に使ってほしいと思う。日本のお互いさまの優しい心を世界にも向けて、国境を越えた災害支援や発展途上国の生活支援にも役立ててほしい。日本を好きになる海外の人が増えたら、巡り巡って日本の平和や安定にもつながっていくと思う。誰かのことを想いながら税金の意義と重みを感じ、次の世代を担える大人になりたい。